

「宿題は廃止すべきか」

エコール・アラカルト

ID:

ID:

ID:

はじめに

僕達が学校の校長先生だったら、宿題は廃止しない。僕たち小学生3人に共通する「宿題は廃止すべきではない」という意見を基に話し合い、僕達なりの考えをまとめることにする。

まず、「しゅくだいがなかったら、なにもしないであそんでしまう」というのが1年生の意見だ。

新しい時代に必要とされる資質、能力

大分大学教育福祉科学部附属小学校の山田真由美教諭は、「自立した人間として、他者と協働しながら創造的に生きていくために必要な資質、能力は、何事にも主体的に取り組もうとする意欲、多様性を尊重する態度、他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク、コミュニケーション能力、豊かな感性ややさしさなどが新しい時代に必要となる資質・能力」と述べている。

そのための宿題として、「小学校低学年のうち、計算やひらがなを繰り返して定着させること、授業と連動させ、目的を持った宿題、復習という意味での宿題」と言っている。

ニューヨーク大学のキャシーデビッドソン氏は「現在の小学3年生が大人になる頃、彼らの65%は今はまだない仕事に就く」と言っている。それは、将来、IT化、ロボット化していく可能性が高い。すなわち、他人との関係性、人間にしかできないこと、読解力と知識により自分で考えて行動する力が必要とされるのだ。

そのための効果的な宿題は、基礎をしっかり定着させる復習中心の宿題、読解力やコミュニケーション能力が高められるような宿題が理想とされるだろう。

基礎をしっかり定着させる計算、ドリルなどの宿題効果は、下記の生活アンケートの結果を見てもわかる。がんばっている学校は、ドリルや小テストを多く利用し、30分以上勉強するという家庭学習時間も確保している。

表V-2 生活アンケートの結果(学校別)

		がんばっている 学校	ふつうの 学校	めくまれている 学校	しんどい 学校	回答内容
家庭 学習	30分以上勉強する	73.4%	52.0%	59.9%	22.6%	
	学校の宿題をする	81.3%	79.3%	92.1%	84.4%	「いつもする」
	宿題はきちんとする	66.1%	64.2%	68.4%	78.1%	「とてもあてはまる」
	分からないときは自分で調べる	53.1%	39.0%	33.8%	44.4%	「あてはまる」
	教科書や黒板を使って先生が教える	90.6%	91.1%	93.5%	90.3%	「よくある」
	ドリルや小テストをする	81.3%	21.5%	20.8%	58.1%	「よくある」

志水宏吉、伊佐真実、知念渉、芝野淳一著『調査報告「学力格差」の実態』岩波書店、2014年

池田氏も「この計算と漢字だけは、子供が自分で練習しない限り身につかないからである。」と述べている。

池田 操著『計算力、漢字力をつける復習法』明治図書、1991年

また、コミュニケーション能力が高められるように、上海の中学校では、ディスカッションの機会が多く、尾木氏は「ディスカッションは人間理解の探求だと言っており、宿題は子どもたちに、次の授業の下調べとして、調べさせるための手作りプリントが出されているようだ。

尾木直樹著『グローバル化時代の子育て、教育「尾木ママが伝えたいこと」』ほんの木、2012年

コミュニケーション能力に関して教育経済学者中室氏は、「どんなに勉強ができて、自己管理ができず、やる気がなくて、まじめさに欠け、コミュニケーション能力が低い人が社会で活躍できるはずはありません。一步学校の外へ出たら、学力以外の能力が圧倒的に大切だというのは、多くの人が実感されているところではないでしょうか。」と述べており、

- ① 学歴・年収・雇用などの面で、子どもの人生に長期にわたる因果効果を持ち
- ② 教育やトレーニングによって鍛えて伸ばせるという能力が重要であると研究の中で明らかにしている。

中室牧子著『「学力」の経済学』ディスカバー・トゥエンティワン 2015年

さて、書店や図書館の海外に関する教育書の大半がスウェーデンの教育事情についてである。OECDの国際統一テストによると、フィンランドは読解力が世界一となっている。

基礎である発想力の養成、論理力の養成、表現力の養成から、応用である批判的思考力の養成、コミュニケーション力の養成というグローバルコミュニケーション力を教育している。

OECD学習到達度調査(PISA)の順位						
読解	科学	数学		読解	科学	数学
フィンランド	フィンランド	香港	1	フィンランド	韓国	日本
韓国	日本	フィンランド	2	カナダ	日本	韓国
カナダ	香港	韓国	3	ニュージーランド	フィンランド	ニュージーランド
オーストラリア	韓国	オランダ	4	オーストラリア	イギリス	フィンランド
リヒテンシュタイン	リヒテンシュタイン	リヒテンシュタイン	5	アイルランド	カナダ	オーストラリア
ニュージーランド	オーストラリア	日本	6	韓国	ニュージーランド	カナダ
アイルランド	マカオ	カナダ	7	イギリス	オーストラリア	スイス
スウェーデン	オランダ	ベルギー	8	日本	オーストリア	イギリス
オランダ	チェコ	マカオ	9	スウェーデン	アイルランド	ベルギー
香港	ニュージーランド	スイス	10	オーストリア	スウェーデン	フランス
ベルギー	カナダ	オーストラリア	11	ベルギー	チェコ	オーストリア
ノルウェー	スイス	ニュージーランド	12	アイスランド	フランス	デンマーク
スイス	フランス	チェコ	13	ノルウェー	ノルウェー	アイスランド
日本	ベルギー	アイスランド	14	フランス	アメリカ	リヒテンシュタイン
マカオ	スウェーデン	デンマーク	15	アメリカ	ハンガリー	スウェーデン
2003				2000		

北川達夫&フィンランド・メソッド普及会著『図解フィンランド・メソッド入門』経済界、2005年

しかしながら、実際にフィンランド出身の Simonsson 氏に宿題事情を聞いてみると、あまり宿題は出されずに自由奔放で、自然と遊ぶのが一番のようだ。ただ、親とのコミュニケーションに役立ったため、宿題はあった方が良いと言っている。これは宿題に限らず、普段の教育に日本との差を感じてしまう。

ほかにも、がいこくのせんせいたちにきいてみた。

### アメリカ J.T せんせい

- しゅう2かい、れきしのきょうかしょのおんどく
- えいさくぶんのしゅくだい
- きまったしつもんのこたえをかんがえる
- りかのじっけんをノートにまとめる

### オランダ Elise せんせい

- 11さいまではしゅくだいがでないけれど、につきやものがたりなど、じゅぎょうでおわらなかつたらいえでする。
- えをかいて、かんけいのあることばをたくさんかいてもらう

### フランス Laurent せんせい

- こくごとさんすう、とくにこくごがだいじ。  
ふらんすごはとてもむずかしいので、いえでもたくさんれんしゅうしたり、しをかいておぼえる。
- がっこうでできなくても、いえでまたべんきょうしたらわかるようになる。
- あまりしゅくだいはおおすぎないほうがよい。

## イギリス Sez せんせい

・じゅぎょうでならったことをきちんとおぼえるために  
いえでまたべんきょうしたり、しゃしんのようなぶんを  
たくさんつくる



## スリランカ Navo せんせい

・ようちえんのときからえいごのべんきょうがおおくて  
えいごのぶんやぶんぽうのしゅくだいがでる。  
・えやにつきのしゅくだいもでるのでためになる。

## アイスランド Rut せんせい

・がっこうやせんせいによってぜんぜんちがうけれど  
1しゅうかんのよていひょうがわたされ、じゅぎょうで  
おわれはしゅくだいはでない。でも、じゅぎょうで  
がんばらなかつたらいえでしないといけない。  
・えいごやさんすう、こくごのしゅくだいがでる。

## 意見

これまで色々とみてきたが、基礎をしっかりと定着させる復習中心の宿題、読解力やコミュニケーション能力、また、グローバルコミュニケーション力を高められるような宿題が理想とされるだろう。

日本だけでなく、世界の色々な国でも宿題はほぼ出されている。やはり、その必要性、効果があるからだろう。そのためには、やはり宿題は廃止すべきではない。特に、小学校低学年であれば何をしたら良いのはわからない。

しかし、宿題は「先生に言われた通りに・・・」ではなく、小学校高学年くらいなら自分から進んで取り組むという形を広めたい。大分市立豊府小学校多田充教諭が出しているような「成長ノート」が理想だ。自分から進んで取り組むことによって、ノートの質を周りの友達と競い合い、より良いものが出来上がるというメリットが生まれる。また、その日の授業の内容をその日その日にまとめるという復習をすることによって授業の大切な「ポイント」がわかり、自分の力となって定着する。もちろん、自分で好きなようにできるノートだから、絶対に楽をしようとする生徒も出るだろうというデメリットもあるだろう。



それでも、授業の大切な事さえおさえておけば、「ちりも積もれば山となる」ということわざのように、自分たちの力になる。

宿題、いわゆる学校以外での「勉強」は誰、何のためにするのであろうか？ほとんどの人たちは、「自分のため」「自分が大人になって困らないようにするため」と答えるだろう。しかし、多田充教諭は全く逆のことを言った。「勉強は自分のため。その次に人のため」ではなく、「人」のことが優先的だ。人のためになる、人の役に立つことでその人たちに喜んでもらう。そのために勉強しているのだ。

『笑点』という番組で、桂歌丸が司会の時にこう話していた。「私たちは、落語を『聞かせてあげる』のではない。『聞いてもらっているんだ。』それに、『笑わせる』のではない。『笑ってもらっているんだ。』」

この発言は、仕事をしてあげるのではなく、仕事をさせてもらっている。他者に仕事をしてもらっている。ことと同じだと思われる。

もし、宿題がなかったら何をするだろうか？それでもやはり復習をするだろう。将来的に人のため、自分のために役立つことをしたい。

宿題が出されずに授業が進むと、能力差も激しくなるだろう。登校拒否につながるかもしれない。

**やはり、宿題は続けるべきだ。  
宿題は廃止すべきではない。**

それにより、人の役に立ち、自分のためになり、社会に貢献できる人材に近づくであろう。

#### 感想・役割分担

今回のテーマに関してのレポートは、小学校1年生2人にはかなり難しかったため、小学校6年生である僕が全体的な流れを考え、1年生は外国の先生への宿題についてのインタビューをしてもらった。

以上